

# 日本語初級学習者の作文研究

## 一文のつなぎ方の分析を通して

金子 泰子

キーワード：談話レベルでの文型の機能、始発型、承前型、転換型、しめくり文

### 要旨

初級で教授項目に従って学習する文型が、作文の中でどのように運用されているか、その実態を探るために、学習者2名の作文を資料に談話分析を試みた。

分析は、林四郎(1973)を主な参考文献とし、文が相接して文章に発展する過程を丹念に調べる方法を採用した。全文を、始発型、承前型、転換型の三種類に分類し、それぞれについて文型決定因子を抽出した。その上で、副題やしめくり文の有無も考慮して、談話の中での文どうしの結束性や全体の首尾の一貫性について考察を加えた。

分析を通して、始発文型での主題の提示や承前文型での承前因子の多用、しめくり文の存在などが文章の結束性や一貫性につながる事が確認できた。一方で初級の文型積み上げ式の指導のみでは、談話構成に必要な因子が十分に指導できないことも見えてきた。

談話を構成する際に機能する文型を見極めた上で、それぞれの文型因子を抽出、整理、体系化して指導に役立てることが今後の課題である。

### 1. はじめに

1999年の秋から開講された日本語研修コースは、2001年秋の時点ですでに4期の学生を送り出した。この間、筆者は第3期を除く3期間で初級コースを担当した。

文型学習を重ねる過程で、担当した3期間の多くの学生が必ずといってよいほど口にしたのは、「今日学習したこの文型を、いつ、どこで、どのように使えばよいか分からない」という悩みであった。これは学習する文型の数が増えれば増えるほど一層切実な問題となって学生たちを悩ませた。文法の学習に熱心に取り組む学生ほど運用力との落差に悩むというのが実情である。

本論では、第1期に担当した初級の学習者2名の作文を取り上げ、それぞれの作文を、一文内での構成ではなく、ひとまとまりの談話を作り上げる過程での文のつなぎ方や流れというものに注目して分析を試みた。作文の評価の観点は種々存在するが、今回はつなぎ方に焦点を当て、分かりやすさの観点から考察をおこなう。わずかでも初級の学習者の悩みの解消に役立つ結果が得られることを期待しての試みである。

### 2. 2名の学習者の実態

2名は共に教員研修生として来日した、漢字圏と非漢字圏からの女子学生である。漢字圏の学生は高校の数学の教師で初来日、30代前半の女性(以後Aとする)である。来日前に初級の前半相当の文法学

習を終えていた。漢字圏ということから漢字表記に問題はなく、読解の際にはおおよその意味を取ることでもできたが、初来日で聞き取る力と発話能力は無に等しかった。

一方、非漢字圏の学生は幼稚園教諭で、Aと同じく30代前半の女性（以後Bとする）である。今回の来日の1年前に他県の交流員として10か月間日本に滞在し、うち1か月間の日本語学習や教育委員会での研修経験がある。また、帰国後も週一回程度プライベートレッスンを受け、日本語学習を続けていた。初級の文法項目はほぼ全般的に習得しており、日常生活でのコミュニケーション面でもほぼ支障のないレベルであった。

この2名の学生に対して、日本語研修コースでは、主に構造シラバスに基づいた授業が行われ、午前中の授業では『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ』が教科書として使用された。午後は漢字学習や総合的な学習、またチュートリアルに当てられた。漢字学習では『BASIC KANJI BOOK』を教科書とし、半年間におよそ300の漢字が扱われた。漢字圏の学習者Aが、聞く、話すレベルで大幅にBを下回り、また漢字の読みにおいても非漢字圏の学習者Bと同レベルであったことから、漢字の学習も適宜工夫を加えながらも同一クラスで進められた。留学生センターが開講されたばかりで、受講生2名に対して指導者が5名（日本語指導は実質4名）という特殊な事情も幸いして、教室内外での指導者とのインターアクションは非常に豊かなものであったと言える。

コース中には見学旅行も組み込まれており、最後にはプロジェクトワーク（ホームビジットやプレゼンテーション）など運用に力を入れたいくつかの学習活動が準備されていた。

2名の学生は非常に勉強熱心で欠席もほとんどなく、文法能力に関しては指導者を驚かせるほど高いものであった。とりわけAの場合、開講当初は聞き取り能力や発話能力がほとんどないにも関わらず、週例の文法テストでは毎回満点、またはそれに近い高得点を上げた。Bも非常によくできたが、その学生が劣等感を感じるほどの完璧さであった。ただし、Aはその分、話したり書いたりすることが思うほどに進歩しないことに対する悩みが深かったことも事実である。

この期の学生に対して、取り立てて作文指導というものは行われなかったが、筆者の研究上の関心から、3週間毎にそれぞれ20分前後の時間をとって合計6回、作文を課した。タイトルは2人の来日後の時間経過を示す、「日本に来て3週間たちました」「日本に来て6週間たちました」といったもののみ与え、内容は自由とした。原稿用紙の使い方や句読点の書き方など適宜指導はしたが、文章そのものの構成や叙述に関しては、特に時間をとって指導することはなかった。この際の作文を本論での分析資料とする。

### 3. 分析の方法

分かりやすい文章とはいったいどういうものを言うのか。論理的な文章の書き方に関する論は数多いが、中でも、

「一つ一つの文とそこまで書いてあることとの関連がはっきりしている」とする木下の考え方（注1）に筆者は同意している。

この考えを基本に、今回の分析に当たっては、林四郎の『文の姿勢の研究』（参1）を主たる参考とした。氏は論のあとがき（注2）で次のように述べている。

・・・文が一つの姿勢を持つのは、それが文章の中にあるがゆえである。だから、文の姿勢を観察することは文を文章の中のものとして見ていることにほかならない。

また、

ものが貯蔵されている状態は、その物が使われないときの状態である。使われるべく待機している時の姿である。貯蔵されている語が実際に使われるときは、文の形になり、文章の形になる。語が文になり文章になるのを語の縦のつながりとすれば、貯蔵されている語彙は語の横の並びである。とも述べている。

上記の「貯蔵された横の並びの語彙」が「語が文になり文章になる縦のつながり」、とりわけ「文から文章になる際の縦のつながり」に注目して、学生の作文の一文一文の接続関係を探ることにした。それによって、文型が文章の中で本来の機能を発揮する際のあるべき姿が浮き彫りにされるのではないかと思うからである。

同書の以下の引用箇所（注3）を主たる観点に分析を試みる。

文章の中の各文を、文章の流れに参与する姿勢の点で見えていき、そこに何かの型を見つけていこう。

文章の流れは、作らなければできて来ない。流れを作る最初の機動力を蔵し、その姿勢を外に表わしている文を、始発型の文とする。一度び起こされた流れを受け継ぐ姿勢を持った文を承前型の文とする。文章中の文の大部分は承前型に属する。流れにちょっとストップをかけて、新たな構えを示す文を転換型の文とする。

ただし、今回は初めての試みであり、厳密に林の方法論を踏襲しているとは言い難い。ひとまとまりの文章の中での一文一文の姿勢を探りつつ、学習者の発想や思考の過程をたどってみたというほどのことである。

なお、作文中の誤字その他表記上の誤りに関しては、ワープロでできうるかぎりに原文に忠実に再現し、活字化以外の修正はまったくおこなわれていない。また、分析の便宜上、一文毎に数字①②③・・・をつけた。題目の次の括弧内には作文の作成日と主教材『みんなの日本語』の進度を示した。

## 4. 作文の分析

### 4-1. 日本にきて3しゅう間たちました（1999年11月1日／みんなの日本語14課）

A ①私は10月5日の晩飛行器で日本に着きました。②成田のホテルで一泊しました。③10月6日特急で松本へ来ました。④今、信州大学の思誠女子寮に住んでいます。  
⑤先々週先生と生活のことをしました。⑥先週から学生会館の3階の教室で日本語の勉強しました。  
⑦先生は○○先生や○○先生が5人いますが、学生は二人だけです、⑧私とブラジルの○○さんです。⑨毎日午前9時半から授業を初めます。⑩「みんなの日本語」と漢字を勉強します。

B5のコピー用紙配布。15分間の自由作文。どの文型に対しても不安げな様子で、訥々とした書きぶり。一文を正確に組み立てることの不安に加えて、つぎの文を接続する際の困難も加わって一層辛そうな様子。終了時にはもっと書きたいことがたくさんあるのにと残念そうな表情を見せた。

①時間、空間場面設定の始発型。

②関連語句「成田（日本）」で、前文とのつながりを持たせた承前型。

母語話者ならば「その晩は」といった指示語を用いて承前の役割を持たせるところであろうか。「その」

という指示詞はすでに3課で学習しているが、具体的なものの指示ではなく前文での言葉を指示する形（前方照応）での使用は難しいようだ。しかし、談話の中での「その」「この」の使用は、文と文の結束性（cohesion）を保証するものとして非常に重要なものである。

③「10月6日」の日付で①②文と時間軸でのつながりを保持した承前型。

母語話者であれば、「翌（10月6）日」を用いるであろうか。「今日」「明日」「昨日」などはすぐにも使えるようになるが、「次の日」「翌日」「当日」などの語彙は、文脈のある談話の中でこそ指導も理解も容易になる。

④「今」と「・・に住んでいます」（て形）の使用で、作文作成時点（11月1日）であることを示し、時間軸で文脈をつないだ承前型。

\*③④は新しい時間場面を設定した転換型にも分類できるが、同じ段落内にまとめてあるので承前型とした。

⑤新しい話題の提出、転換型。

「到着後から先々週までは、先生と生活の準備をしました。」というふうに、時間経緯を示す語句がまだ正確に使えないので、唐突な文のつながりになってしまっている。

「～から～まで」はすでに4課で学習済みであり、日常の会話では頻繁に使っているが、文脈の中で関係性を保ちながら使うことには不慣れである。

⑥新たな話題の提出、転換型。

「先週から」という時間軸の提示で先行文との省前性も保っている。動詞は「しました」よりも「始めました」を使えば、現在につながる継続行為であることがはっきりする。

「始める」はちょうどこの日に学習した新出語である。継続行為の開始を示す動詞も、現時点でなく過去が開始時点となるとすぐには使用できないようだ。授業の開始時には早い段階から「始めましょう」を常用しているし、テキストでも、「さあ、会議を始めましょう」という形で登場してはいるのだが。

⑦新たな人物の登場で転換型。⑥の「日本語」を反復して「日本語の先生」とした方が自然につながたであろう。

逆接の接続助詞の「が」は8課で学習するが、定着率が非常に高く、日常会話でも作文でも、どの学生もよく利用する。

⑧前文の「二人」を題目（省略）とした承前型。

⑨新たな話題提示の転換文。

⑩前文の「授業」を受けて（「授業では」の省略）・・を勉強します」で、承前型。

「ている」を14課で学習した当日の作文だが、「勉強しています」にはなっていない。「て形」を自然な形で使いこなすのにも時間がかかる。

限られた時間内での作文であったことも理由であろうが、いわゆるしめくくりを意識した文は見出せない。

- B** ①私は10月07日 なりたくここにきました。  
 ②なりたくこのホテルで一ぱくしました。 ③10月8日  
 まつもとへきました。 ④えきへミランダさんとさとう先生  
 とふじもとさんは私をむかえにきました。  
 ⑤あさひかいかんでよっ日とまりました。 ⑥12日から  
 じぶんのアパートをかりました。  
 ⑦19日日本語のべんきょうをはじめました。 ⑧いそがしいが  
 とてもおもしろくてたのしいです。⑨まだ 日本語を  
 むずかしいとおもいますが先生方しんせつに  
 おしえてくれますから私もがんばっています。  
 ⑩まつもとはとてもさむいはずかきれいなまち  
 です。⑪ゆめいなところたくさんありますからじかん  
 があればあちこちいきたいです。  
 ⑫まだともだちすくないからときどきさびしいです  
 けれどももんだいありません。⑬さびしいときにブラジル  
 のみなさんへでがみかきます ⑭また 日本のせいかつ  
 だんだん なりますからまい日げんきでがんばっています。

Aと同じく時間は15分間。指導者にあれこれ質問をしながら楽しげに、時間いっぱいよどみなく書いた。Bは、Aに比べると日本での生活経験や日本語での活動経験が豊富な分、話すことや書くことへの抵抗感あまり見られない。国民性の違いもあろうか、間違いを恐れず、習った文型や漢字を実際に使うことを楽しみにしている様子が見える。

①時間、空間場面設定の始発型。

②前文中の「成田空港」を反復使用した承前型。

母語話者ならば、「その夜は」を加えるだろう。「その」に関してはAと同様である。

③日時を表示して、時間軸でつないだ承前型。

これもA同様、「翌日」が加わる方が自然だろう。

④③の「着きました」と「駅へ・・・私を迎えに来ました」の意味的関連から承前型。

「えきへ・・・はわたしをむかえに・・・」の文中の「は」は「迎えに行き（「来る」の誤り）ました」の主格を示すとともに新情報として「が」となるべきところである。

\*新人物の登場で転換型とも取れるが、同じ段落内であることを考慮して承前型とした。

⑤⑥前文との続き具合と期間の表示を考慮して承前型。

キャンパス内の宿泊施設である「旭会館」が唐突に出て不自然な運び。書き手の行動を時間の経過順に書き進んでいるので、関係者ならばどうにか理解できるが、第三者には理解しづらいところである。本来ならば「到着後はキャンパス内の旭会館に4日泊まりました。そして、12日から自分のアパートを借りました」または「・・・泊まって、12日から・・・」、あるいは、「12日に自分のアパートを借りるまではキャンパス内の旭会館に4日泊まりました」というふうになるだろうか。転換型とも取れるところである。

「そして」は、8課で「東京の地下鉄はどうですか。きれいです。そして便利です。」「食堂の食べ物はおいしいです。そして安いです。」のように並立・添加の例はすでに学習しているが、時間的継起を示す「そして」は提示されていない。

⑦「19日」の時間軸の提示で前文を承けているが、「日本語のべんきょう」という新しい話題の提出で転換型。

「19日に」「19日から」など、時点や起点を示す助詞が欲しいところである。テキストの14課で導入されたばかりの動詞「始める」を使いこなしている。

⑧前文内の「日本語の勉強」を題目語（省略されているが）にする承前型。

逆説の接続助詞「が」も正確に使用されている。文体の統一という面からは「忙しいですがとても面白くて楽しいです」となるべきところ。

⑨⑦から続く段落を締めくくる文としての転換型。

副詞「まだ」、接続助詞「が」・「から」を使って、心情と状況と決意をつなぐ長い文を組み立てている。「先生方」には格助詞の「が」を付けるべきところである。

⑩新空間（「松本」）場面を設定する転換文。

話題の転換記号として「ところで」や「話は変わりますが」などを使用すると分かりやすくなるかもしれないが、書きことばの場合は前後の文脈を手がかりに読み進むことができるので、転換記号がなくても話しことばほどは不自然さはない。「松本」は③で既出であるが、題目として取り上げたのは⑩が初めて。

「寒いが」は文体の統一から「寒いですが」となるべきところ。

⑪「松本には」が省略されているが、前文と同題目による承前型。

副助詞の「も」を添えて「有名なところも」にすれば、先行文の「しずかできれいなまち」との呼応でさらにうまく承前することになるだろう。あるいは、添加接続の「それに」が文頭にあってもよいがテキストでは28課で導入される。「・・・から・・・れば・・・です」の一文はよくつないである。「れば」は35課で出てくるので、この学生はすでにセンターの授業以外で習得済みのようだ。

⑫ここでまた「松本の街」から「友だち」への話題の変化がある、転換型。

もっとも、生活全般として捉えれば、今生活をしている松本の街、および生活環境の一部としての友だちというとらえ方もできよう。「まだ・・・から・・・ですけれども・・・」の文は、三つの内容をうまくつないである。ただし、この「から」は「ので」の方がふさわしい。「から」は9課で既習、一方「ので」は39課である関係で、この時点での運用はまだ無理と言える。

⑬前文中の「さびしい」を反復使用した、承前型。

取り立ての助詞「は」が使えると日本語としてより自然な表現になるだろう。

⑭添加の接続詞「また」を使った承前型。「毎日がんばっています」の総括文で、文章のしめくくりをも意識している。「日本の生活にだんだん慣れますから毎日げんきでがんばっています」に「日本の生活にも」と「も」を付けくわえると、「また」がより効果的に働くことになるだろう。

4-2. 日本に来て6週間たちました(1999年11月22日/みんなの日本語24課)

**A** ー早く日本語が上手になりたいー

①日本に初めて来てから、生活に慣れないし、家族がないし、毎日カレンダーで1日ずついいさんしました。②いま生活にだんだん慣れましたから、速くて6週間もうたちました。③毎日先生に日本語を勉強しながら、日本の文化を少し勉強します。④これは日本語の勉強はよかったです。

⑤ほかに、先生方方はみんなしんせつだし、○○さんはおもしろいし、いっしょに勉強したり、旅行したり、おもしろい話を話したりしましたとても楽しかったです。⑥今、私の一番の問題は何がすると速く日本語の話すことと聞くことをできます。⑦先生方方にいろいろお願いします。

**B** ーたのしかったけんしゅうりょこうー

①私はだんだん日本のせいかつになります。②毎日元気でごんばっています。③まだ日本語はたいへんむずかしいと思いますけどだいたいできます。④二週前に先生方とならいつまごへ行きました。⑤とてもおもしろかったです!⑥ならいで古いたて物をみたり先生方のせつめいを聞いたりしました。⑦古い物のレストランで昼にそばと五へんもちを食べました。⑧とてもおいしかったです!⑨それからつまごへ行きました。⑩あそこでま茶アイスクリームとくりきんとをたべました。⑪とてもおもしろい、たて物のやねの上に石があることです。

B5、横書きの原稿用紙配布。この回より、話題を絞ってなるべく詳しく書かせることを意図して、内容にふさわしい副題をつけることをA、B両名に指導。今回に限り、Aのこの副題は、相談して指導者がつけた。

Aは、一文ごとの内容は理解できるが、文章全体として見た場合のまとまりや流れがない。思いはあふれるのに、日本語にできないもどかしさを訴える。作文を楽しむというよりも、書かなければと焦る気持ちが先立つ様子。後半、文意不明になっている。

①時間・空間場面を設定して、生活の状況を述べる始発型。

「・・・し・・・し」の文型と組み合わせてかなり長い文を作り上げる努力をしている。テキストでは28課に出てくる文型で、授業ではまだ未習。

②前文内の「生活になれない」を「生活に慣れました」の形にして反復使用した承前型。

後半部の文意が不明瞭である。「あつという間にもう6週間たちました」と表現したいところか。副詞の「もう」は7課で学習済み。

③「毎日」は、前文中の「6週間」の「毎日」という意味での関連語句として、承前型。

「日本の文化を」は「日本の文化も」にする方が日本語との関係がはっきりするだろう。

「日本の文化」の取り立てで、転換型とすることも可能。

④指示語「これは」で、先行文内の「日本文化の勉強」を指し、承前型。

「日本語の勉強は」ではなく「日本語の勉強に」となるべきところである。

⑤話題転換を表す「ほかに」を使用して、転換型。

「話したりしましたとても楽しかったです」は、て形で一文にまとめられるところだろう。句読点のないまま続けて書き込まれていた。

⑥話題を転換し、主題を提示した、転換型。

「私の一番の問題は」と提題助詞「は」で題目を取り上げ、述部は「何をすると(どうすると)早く日本語を話したり聞いたりできるようになるかということです」と書こうとしたものであろうか。

前文とのつながりが示されていないので、唐突な感じがする。よかったり面白かったり楽しかったりした内容について書いたこれまでの文脈とつなぐには、逆接の接続詞「しかし」が必要であろう。「しかし」は19課で学習済み。副題と照応する主題文である。

⑦前文の内容「私の一番の問題」を承けて先生方に「いろいろお願い」を添えたしめくりの一文で、承前型。

Bは、直前にあった研修旅行について、いろいろと固有名詞を思い出したり指導者に確認したりしながら綴った。時間不足で中断の形で終えたが、書きたいことはつぎつぎと浮かぶ様子であった。句読点が全て直前の文字と同じマス目の右下に入っていたので指導。

①空間場面と主題文（「日本の生活になれます」）設定の始発型。

教科書の19課に出てくる「だんだん暑くなります」という状況の変化を示す文型と「慣れます」とを混同しているようだ。

②後続文として意味的に①とつながる、承前型。

「て形」で①②を一文にまとめたいところ。「私はだんだん日本の生活に慣れて、毎日元気で頑張っています。」

③前文と意味的に関連する承前型。

①で「生活に慣れた」と述べ、ここでは「まだ日本語はたいへんむずかしい」と「生活」と対比させる形で取り上げて解説している。「まだ」がその状態の持続を表している。

逆説の接続助詞「が」で「だいたいできます」を続けて、この段落のしめくりりにしている。

④新しい時間と空間場面の設定による転換型。

⑤エクスクラメーションマーク付の文で④の内容を総括した承前型。

⑥⑤の内実を具体的に述べる承前型。

⑩まで説明が続く。⑥では、奈良井でのこと。時間の表示（「10時から12時まで」のような）があると、つぎの文との関係付けが明確になったかもしれない。

⑦⑧は同じく奈良井でのお昼ご飯の様子を描いた承前型。

「て形」で一文にまとめることも可能。⑥と同じ場所であるかどうか分かりづらいので「昼に」を文頭に出して時間で関連づける方が、分かりやすくなったかもしれない。

⑨継起性接続詞「それから」を使って場面移動の承前型。

⑩「あそこ」は誤り。指示語「そこで」か「ここで」になるべきところ。承前型。

⑪新しい話題提示の転換型

「とても面白かったのは」と書き出すところであろうが、教科書では「～のは」は38課まで出てこない。

まとめ文は見あたらない。



4-3. 日本に来て9週間たちました (1999年12月13日/みんなの日本語36課)

**A** - もう一度日本語の勉強について -

①もう日本に来て9週間たちましたね。②初めて外国で生活しますから、違う文化や観念などを触って、毎日ショックを受けます。③暇な時、ゆっくり考えて、ほかの国へ行って、違う文化を習うチャンスがとても珍しいと思いました。

④今、私の一番希望する事は上手に日本語で話せるようになりたいです。⑤もしそのようになったら、もっと日本の文化よくひらべられます。⑥それから、中日文化の比較をもらいたいんです。

**B** - ブラジルのクリスマス -

①私は毎日元気でがんばっていますが今月はちょっとさびしいです。②ブラジルで一年の中で今一番たいせつでなのしいときです、クリスマスですから。③日本はカトリクの国ではないのでクリスマスはさびしいと思います。

④ブラジルでクリスマスの日だいたいあちこちの家でかぞくあつめてたのしいパーティをします。⑤私の父母の家にもみんなあつまり、たくさんりょうりをつくりとてもにぎやかなパーティをします。⑥私の兄弟の子どもたちはたのしみにサンタクロースのプレゼントをまてます。

Aは、思うように上達しない日本語の勉強のことが気がかりで、なかなか話題が広がらない。一方Bは、研修旅行やクリスマスのことなど、多彩な話題を取り上げている。

文法を中心にした週例テストでは、ほぼ毎回満点のAであるが、それが作文の力に直結しないことに対する焦りも訴えていた。

①時間と空間の場面設定の始発型。

話しことばでの終助詞「ね」を使用。教科書の会話で、4課、7課、10課と頻繁に出てくる。書きことばと話し言葉の使い分けの指導はされていない。

②①の9週間の状況説明で、後接して意味的に関連する承前型。

「外国」は①の「日本」と同義。

③「ほかの国(外国)」「違う文化」は前文からの反復使用で、承前型。

「て形」での接続があいまいで文意が不明瞭。文末の時制は現在形になるべきだろう。

教科書での文型単位の「て形」練習では、いくつもある「て形」の細かな意味の使い分けまではなかなか指導できない。

④4-2. の作文と同様、話題の転換と主題の提示による転換型。

これまで述べてきた文化や考え方の違いよりも何よりも、まず日本語が話せることがAにとっての最も重要な緊急課題であることが述べられる。「今、私の一番希望することは、上手に日本語で話せるようになることです」となるべきところ。

⑤指示語「そのように」で明確な承前型。

「もしそのようになったら」は「上手に日本語で話せるようになったら」であろう。

⑥接続詞「それから」で「中日文化比較」を付けくわえる承前型。文末の「んです」の文法的働き(述語の解説性)からも承前性は明らか。「それから、中日文化の比較をしてもらいたいです」と書くべきところか。

しめくり文はない。

Bは、句読点の表記の誤りがなくなり、漢字の数も徐々に増えている。平仮名の「た」と「な」、助詞、自動詞、促音、カタカナ表記などに誤りが見えるが、「～ですが、～」「～ので、～」といった、接続句

が正確に使用されており、文と文との内容面でのつながりがスムーズである。時季にあった内容で、表現したいことをかなり自由に表現している。

①時間場面と主題を設定する始発型。

②理由説明「クリスマスですから」で承前型。

話し言葉的な接続助詞の倒置用法。

③「日本は」でブラジルとの対比の承前型。

④「クリスマス」の反復使用で承前型。

⑤「私の父母の家にも」の副助詞「も」の使用で承前型。

⑥⑤の「みんな（集合把握）」の中の「兄弟の子供たち（個別把握）」を取り上げる承前型。

⑥も前文の「あちこちの家」と「私の父母の家」で同様の関係が見られる。

しめくり文は無い。

#### 4-4. 日本に来て3か月あまりたちました（2000年1月17日／みんなの日本語43課）

**A** - また勉強したいこと -

①「日本に来て3か月余りたちました」と書いてある題目を読んだから、自分も知っていますが、もびくりしました。②本当に時間が速くたちました。

③日本に来てから、先生方は親切に日本語や日本の文化を教えながら、自分もがんばっています、④そろそろ二の教科書も終わりますが、まだ日本語が少し話せるようになります。

⑤お正月に留学生の友だちがみんなは今度の教育部の先生に会いましたが、私はだけ会いません。⑥でも先生にお年賀状をいただきました。⑦“できるだけ本を読んで、日本の教育制度を理解しておくいいです”と助言がございました。

**B** - 日本でせいかつする -

①3か月間でたくさことを覚えましたはまだ日本語はたいへんむずかしいと思います。②4月から山梨大学で日本の教育について勉強がはじめます。③今まで漢字があまり分からないので日本の教育について本を読むことができるかどうか分かりませんから心配しています。④これから漢字とせん門の言葉覚えられるようにもいっしょうげんめい勉強しようと思っています。

⑤せいかつについては今問題ないですほんとうに日本のせいかつになりました。⑥だんだん新しい友もだちもできていますから毎日げんきでがんばっています！

Aは、「から」、「ながら」、「まだ」、「だけ」など、新しく知識として入った語句を使おうとする努力が見受けられるが、どれも正確な表現には至っていない。段落相互の関係が明確ではなく、全体としての流れも悪い。

①時間と空間場面の設定および心情吐露の始発型。

②前文の内容を異なる表現でまとめた承前型。

③①の「日本に来てから」を反復使用する承前型。

「この間」などの指示語が使えればより自然に文をつなぐことができるだろう。28課で学習した「ながら」は、動作主体が結びの述語と同じでなければならないが、間違った使いかたをしている。

④後接位置と意味（日本語）の関連から承前型。

③の内容からつなぐのであれば、「しかし」などの逆接の接続詞があれば、もっとスムーズにつながったであろう。

「も」は「が」とは共起しない。「まだ」を受ける否定形が整っていない。

「しかし、そろそろ二の教科書がもう終わるのに、まだ日本語が少しも話せるようになりません」となるべきところか。「のに」は45課で学習済み。

⑤新しい話題（時間・空間・登場人物）を提示する、転換型。

前文との関連において唐突さがある。先行文中のどこかに来日の10月が明記されているか、または「今度の」が「4月からの」という具合に日時がきちんと示されれば時間軸でのつながりもできただろう。助詞の使用その他、細かな文法上の誤りが散見される。

⑥逆説の接続詞「でも」で承前型。

⑦前文中の「先生」を受けて「先生は」を省略した、承前型。

しめくくり文はない。副題で示したテーマ（「また勉強したいこと」）は文の形ではどこにも示されていない。

Bは、画数の多い漢字が増え、助詞の使用も徐々に適切になってきている。自動詞と他動詞の混同、意志形の間違い、清音と濁音の混同と促音の問題などが散見されるが、文同士のつながりは自然で流れもよい。また、「日本語と専門の勉強について」と「生活について」との二つでまとめた段落の関係性もよく、文章全体としてのまとまりもある。

①時間場面と主題（「日本語はたいへん難しい」）を設定する始発型。

②新しい時間と空間場面を設定する転換型。

③前文の「日本の教育」反復使用による承前型。

④前文の「漢字」「専門の言葉（日本の教育）」反復使用による承前型。

⑤新しい話題を提示する転換型。

まだ、「慣れました」が「なりました」のままである。「ほんとうに日本の生活に慣れましたから、生活についてのことは今問題ないです」となるべきところか。

⑥生活上の重要な要素「友だち」にも言及して、問題がないことを再度強調（！付き）し、文章をしめくくる承前型。

「新しい友だちもできて」の「も」は、前文の「生活に慣れました」を受け、さらに付けくわえるものとして承前因子に数えることができる。

4-5. 日本に来て4か月たちました (2000年2月7日/みんなの日本語50課終了後2週間)

A -中国の春節-

①今まで、だいたいと同じ題目の作文も四つ書きましたが、その題目に考えて、毎日大切なことは学習と生活です。②でも、文化や飲食や季節など、中国のと日本の違うところは多分ブラジルのと日本の違うところよりそんな多くないので、時間がたった時、自分の勉強はどのようなになったかは私の一番考えていることです。

③ところで、今日は別のことを書きましょう。

④それは中国の春節です。

⑤春節は中国の一番大切な節日です、⑥中国でも正月と呼びます。⑦今年の正月は二月五日から一ヶ月です。

⑧中国には様々な民族がありますが、正月をする方は違います、⑨正月の時間も違います。

⑩でも一緒に住むので、内地の人人はだいたい漢族と同じ習慣になれています。

⑪二月四日は除夕です。

B -私の生活-

①日本に来て4か月たちました。②本当に今は前よりとても楽しいです。③始めの時は生活と勉強についていろいろな心配ことがたくさんありましたが今はよゆうができました。

④前は勉強がとても忙しかったので遊ぶ時間があまりありませんでした。⑤また言葉もできるかどうか分からないので遠ところへ行きませんでした。⑥今は一人で松木のあちこちの有名なところへ行けるようになりました。⑦それに日本の文化についてもきょうみがありますから日本人とドイツ人の友もだちといういろいろな面白い勉強ができました。

Aに、作文の話題がいつも同じなので、他のことについても書いてみたらとアドバイスすると、気が乗らない様子で春節のことを書き始めた。後半は時間切れで、途中である。

運用能力が上達しないことにはらだちがあり、自国の文化に関心が向く状況ではなかった。ただし、中国の春節に関しては単文の積み重ねながら正確に書かれている。話題もどんどん広がるようで、後半部分は前半部の倍のスピードで書き進んだ。学習者の背景知識は書く力にもよく反映されるようだ。

①「今まで」の作文を振り返り、「大切なことは学習と生活です」と主題を設定した始発型。

「だいたい」と「も」の使い方が不正確。

②文化や飲食の問題よりも「自分の勉強を一番考えている」という内容で、①の言い換えとも言える承前型。

「どのようなになったか」の「か」が抜けている。

文頭の「でも」は指導者の助言に対するものと受け止められる。

③「ところで」(40課で学習)を使って話題を転換している、転換型。

④③の「別のこと」を指して指示語「それは」で正しく受け、新しい話題である「春節」を提示している、承前型。

⑤前文の「春節」の反復使用で省前型。

⑥前文の「中国」の反復使用で、承前型。「春節は」を「春節を」(省略)で受けた承前型とも考えられる。「中国ではも」は「中国でも」。

⑤⑥は「て形」でつないで、「春節は中国の一番大切な節日で、中国でも正月と呼びます。」とするとぶつぷつ切れた感じがなくなる。

⑦前文の「正月」の反復使用で、承前型。

⑧前文の「正月」の反復使用で、承前型。

「正月をする方」は「正月の祝い方」か。

⑨前文の「正月」の反復使用で、承前型。

⑧と⑨の「正月」と「違います」の重複を避けるために「正月の祝い方も時間も違います」とすると簡潔になる。「が」を前置きの事柄の提示と見ることもできるが、逆説と捉えて誤解を招き兼ねないので、ここでは因果関係を示す「て形」か「ので」を用いた方が意味が伝わりやすいだろう。

⑩逆接の接続詞「でも」を使用した承前型。

「住むので」は「住んでいるので」がふさわしい。

⑪新しい時間場面を設定する転換型。

時間切れでしめくり文には至っていない。

Bは、漢字の使用が増え正確になってきている。「違ところ」(遠いところ)、「松木」(松本)、「友もだち」(友だち)などいくつか不正確な点があるが、時間の前後関係を示す書き方には無理がなく、「また」、「それに」などの接続詞の使用も適切である。生活が安定すると同時に、文化面への関心が深まる様子が見える。

①時間と空間による場面設定の始発型。

②①で示したこれまでの期間と比較するために、「今は前より」と前文中の期間「4か月」に関連して言及しているので承前型。

③②の内容を詳しく言い直して説明する承前型。

④③の前半部をさらに具体化した承前型。

⑤接続詞「また」で添加の承前型。

⑥⑤の「行きませんでした」と対照させて「行けるようになりました」と展開する承前型。

⑦接続詞「それに」でさらなる添加と展開。「日本人とドイツの友だち」が新出で説明不足の感があるが、「いろいろ面白い勉強ができました」には文章のしめくりの姿勢が感じられる。副題「私の生活」が「面白い」「楽しい」というテーマで首尾一貫している。

#### 4-6. 日本に来て6か月たちました

A - 松本での6ヶ月間を振り返って- (2000年3月27日)

- ①早く5ヶ月間をたちました。②この間、松本の生活について、いろいろな収穫や感想があります。③初めて海外の留学生活として、一番深い感じであるのは言語です。④上手に留学している国の言葉が使わなければなりません。⑤それなら、勉強や生活などもうまくいけるし、理解や交流などもできやすいです。⑥次に、学習や交流の目的として、理解はとても重要です。⑦例えば、日本が中国の隣にあり、文化や生活習慣に似ているところがありますが、違うところが多いです。⑧教育にとって、多分もっと違うと思っています。⑨もしいつもおかしいと思っている、どうやって勉強しますか、⑩何が勉強するのは必要ですか。
- ⑪初めて松本に来たとき、ほとんど日本語が分からなかった、⑫日本語も話せなかった、先生方が授業をした時使った言葉も分からないところが多かったです。⑬今はだんだん日本語が少し話せるようになりました。⑭私にとって、先生方が責任を持って、親切で真面目に教えた仕事をする態度も深く印象を心に残りました。
- ⑮少し残念なことは、私にとって日本語の授業はとても短いと思います。⑯もっと専門の勉強や交流に役にたつために日本語の勉強を進めなければならないと思います。⑰これからも先生に教えていただけませんか。
- ⑱この半年間、どうもありがとうございました。

最後の作文は、コース最後のプレゼンテーション準備と重なり授業中に時間がとれなくなって、コース終了後にメールでの提出を依頼した。時間制限はしていない。

Aのこの最後の作文の長さは、44字×15行の660字、全19文で、記述量が飛躍的に増えていた。一方、Bの総字数は44字×11行の484字、全11文であった。

①時間場面設定による始発型。

②指示語「この間」で前文の「5か月」を受ける承前型。

松本の生活についての総括的解説。

③「松本の生活」を「初めての留学生活」と言い換え、「言語」の問題を「一番深い感じがある」と取り立てている。承前型。

前文の「いろいろな収穫や感想があります」を受けて、「その中でも」というような指示語が使えると承前性がより明確になっただろう。

④前文の「言語」を「留学している国の言葉」で言い換えた承前型。

⑤接続詞「それなら」で前文の内容を承ける承前型。

「上手に言葉が使える」を指すなら、「そうすれば」の方がふさわしいか。

⑥「次に」で新しい話題を提示した転換型。

⑦「例えば」で前文で示した話題の具体例を提示する承前型。

⑧⑦に続く別の具体例を提示する承前型。

「また」などの接続詞があってもよいが、なくても引き続きの文である位置関係から問題はない。

⑨読み手に先行内容を問いかける（あるいは自問）承前型。

⑩⑨に引き続き、先行文脈に関して問いかけた承前型。

「何を勉強するのが必要ですか」か。

（⑨⑩は文意が不明瞭のため、暫定処置とする。）

⑪新たな時間と空間場面を設定した転換型。

⑫前文の「日本語が分からなかった」に「（日本語は）話すこともできなかった」を付けくわえる、「日本語」反復使用の承前型。

⑬に続けて「日本語が分からなくて話せなかった。」とすべきか。「日本語も話せなかった」は「話すこともできなかった」であろう。副助詞「も」が正しく使えると効果的に文をつなぐことができる。

⑭「先生方が授業をしたとき使った言葉も」の「も」を使って、先行文脈の「日本語が分からなかった。話せなかった」をより具体的に説明する承前型。

⑮前文語「日本語」の反復使用による承前型。

⑯新しい話題を提出する転換型。

⑰新しい話題を提出する転換型。

⑱前文の「日本語の授業はとても短い」を受けて「もっと日本語の勉強を」と意味的関連で続ける承前型。

⑲前文内容に関して読み手（先生）に依頼する表現の承前型。

接続詞「ですから」が文頭にあると考えると筋が通る。

⑳「この」の指示語で、省前型。しめくり文。

B ー松本での6か月ー (2000年3月18日)

- ①この6か月の間に私は、松本で日本語の勉強だけでなく、文化や歴史や宗教などについても勉強しました。それに日本人のお宅へいたり、お店の人と話したり、生活のいろいろなことにも注意したりして、日本人のかんがえ方についても理解することもできました。③私は手作り作ることが大好きなので日本人のおばあさんに松本手まりを教えていただいととてもうれしかったです。④本当に日本人の方と理解していい勉強になりました。
- ⑤4月から山梨大学で自分の専門の勉強を始めます。⑥私は子供の心の問題について研究したいと思っています。⑦まだ日本語はたいへん難しいと思います。⑧特に漢字があまり読めませんがいくら難しくても覚えたいと思っています。⑨それに子供たちの心の問題がかいけつできるよにもっと一生懸命がんばりたいと思っています。
- ⑩私は山梨へいっても、ブラジルへ帰っても先生方と松本のことを忘れません。⑪いつまでも心から感謝いたします。

Bの最後の作文は、句点がピリオドになっていることと、「手作り作る」、「かいけつできるよに」など、いくつか小さな誤りはあるが、三つの段落構成とそれぞれの内容、およびそのつながりに大きな問題はなく、読みやすい文章である。

ワープロでの作文は、漢字の自動変換機能によって、非漢字圏の学生には非常に便利な道具となる。この学生からもコース中にときおりメールが届いたが、ローマ字入力でのタイピングに問題がないので、手書きより早く正確に日本語で文章が綴られていた。

①時間と空間場面と主題の一部を設定する始発型。

②接続詞「それに」で①への添加説明の承前型。

③②をさらに具体的に解説する承前型。

④前文の「日本人のおばあさん」を「日本人の方」と言い換えた承前型。

「本当にいい勉強になりました」には、段落のしめくり意識が見える。

⑤新しい時間と空間場面を提示し、新しい話題に移る転換型。

⑥前文中の場所（「山梨大学」）を省略し「専門の勉強」を詳しく説明した承前型。

⑦先行文脈から推し量って、「研究するためには」が省略されていると考えられるが、後続しているので、問題なく読み進められる承前型。

⑧⑦をさらに具体化して解説する承前型。

⑨接続詞「それに」で新たな内容を添加する承前型。

⑩新しい話題を提出する転換型。

⑪お礼の言葉でしめくくる転換型。

⑩と⑪はひとくくりでしめくくり文とも考えられる。

## 5. 分析結果と考察

4-1. から4-6. の分析結果を、以下のようにそれぞれ表にしてまとめ、考察を加える。

### 5-1. 4-1. の分析結果と考察

4-1. 日本に来て三週間たちました

## A 全10文

文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	時間・空間場面の設定	1
承前型	5	関連語句	1
		時間軸	2
		前文語題目（省略）	2
転換型	4	新話題設定	4
しめくり文	無し		

## B 全14文

文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	時間・空間場面の設定	1
承前型	9	接続詞「また」	1
		前文語反復	2
		前文語題目（省略）	2
		時間軸	1
		後接による意味関連	3
転換型	4	新話題設定	2
		新空間場面設定	1
		段落しめくり文	1

しめくり文 有り

始発文型は両名とも時間・空間場面の設定での書き出しである。

承前文型は、Aは全10文のうち5文の半分で、承前因子は関連語句と時間軸、そして前文語題目（省略）であった。一方、Bは、関連語句や時間軸以外に、接続詞、前文語反復、前文語題目（省略）、後接による意味の関連など、多彩な接続因子で文をつないでいる。

転換型は、Aは全10文のうち4文がそれに当たり、すべてが新しい話題の提出であり、これらを承前する文型は存在しない。この事実が、結束性の無さを感じさせるとともに談話としての一貫性のなさにも通じるのであろう。Bの転換型は4文で、うち2文は時間軸（日付・「まだ」）を併用している関係で承前性を併せ持つ。新空間場面は「松本」で、題目として取り上げるのはこの文が初めてだが、③で既出の空間である。残る1文は段落を締めくくる意味合いを持つ内容のために転換型に分類されているが、先行文を総括するという側面では省前性を併せ持ち、結束性を乱すものではない。

## 5-2. 4-2. の分析結果と考察

## A ー早く日本語が上手になりたいー

全7文

文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	時間・空間場面の設定	1
承前型	4	前文語句反復	1
		関連語句	2
		指示語「これは」	1
転換型	2	語句「ほかに」	1
		主題文設定	1

しめくり文 有り

## B ーたのしかたけんしゅうりょこうー

全11文

文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	空間場面・主題文設定	1
承前型	8	後接による意味関連	2
		前文の総括	1
		具体化による詳細説明	3
		接続詞「それから」	1
		指示語「そこで」	1
転換型	2	新時間・空間場面設定 （時間軸併用）	1
		新話題提示	1

しめくり文 無し

始発文型は、Aは時間・空間場面の設定、Bは空間場面に主題文設定が加わっている。

承前型は、Aに前文語句の反復と指示語が加わった。Bは、接続詞、指示語、具体化による詳細説明など、多彩な接続である。



転換型は、A B両名とも2文有るが、Bは、一つに時間軸（「二週間前」）を併用しているので、他と全く関連を持たない新しい話題の提出は、作文の時間終了で途中になってしまった最後の一文のみである。Aは、最後から2文目で主題の設定を行う転換文が現れるが、先行文との一貫性は見あたらない。ただし、副題とは見事に照応している。

### 5-3. 4-3. の分析結果と考察

A - もう一度日本語の勉強について -				B - ブラジルのクリスマス -			
全6文				全6文			
文の型	数	型を決定する要素	数	文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	時間・空間場面設定	1	始発型	1	時間場面と主題設定	1
承前型	4	前文語反復	1	承前型	5	理由説明「～ですから」	1
		指示語「そのように」	1			対比の「は」	1
		接続詞「それから」	1			前文語反復	1
		（文末「んです」）				副助詞「も」	1
		後接による意味関連	1			個別把握	1
転換型	1	新話題提示と主題設定	1	転換型	無し		
しめくり文	無し			しめくり文	無し		

始発文型は、Aは時間・空間場面設定で、Bは時間場面と主題設定である。

承前型の因子には、Aに指示語、接続詞に加えて、文末の「んです」、「～ですから」が加わり、Bでは対比の「は」、副助詞「も」などの文法機能の活用も見えている。Bの、前文で集合把握したものを後接文で個別把握して捉える表現も分かりやすい。

Aは今回も、4-2. 同様、終わり近くで主題の設定があり、その後文章が展開していない。一方Bは、始発文型で主題の設定を行っている関係で、話題が絞られ、転換型の文型もなく、承前因子を活用して主題を展開した首尾一貫した文章になっている。時間制限での作文の関係でしめくり文に至らないが、まとまりの感じられる文章である。

### 5-4. 4-4. の分析結果と考察

A - また勉強したいこと -				B - 日本で生活する -			
全7文				全6文			
文の型	数	型を決定する要素	数	文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	時間・空間場面設定	1	始発型	1	時間場面と主題設定	1
承前型	5	先行語句反復	1	承前型	3	前文語反復	2
		前文語題目（省略）	1			段落しめくり文	1
		前文の書き換え	1				
		接続詞「でも」	1				
		後接による意味関連	1				
転換型	1	新話題提示	1	転換型	2	新時間・空間場面設定	2
しめくり文	無し			しめくり文	有り		

始発文型は、前回同様、Aが時間・空間場面の設定でBが時間場面と主題の設定である。

承前型の決定因子は、Aもかなり豊富になったが、まだ運用が不正確である。

転換文型による新しい話題の提示は、Aは今回一つに押さえられているので、文章全体の話題も二つ

(「今までの日本語の勉強」と「専門に進んでからのこと」)に絞られ、それぞれに関していくらかの展開が見られる。ただし、結束性があいまいな分、段落内のまとまりも弱く、また段落相互の関係もあいまいでしめくり文も無く、結果的に一貫性のない文章となってしまっている。

Bは、始めの段落で主題(「日本語はたいへん難しい」)を述べ、ふたつめの段落で「専門の勉強と日本語」について、そして三番目の段落で「生活と日本語について」というように、段落毎に内容がまとまりを持っている。また、二段落目の終わりには段落のしめくり文(「もっと一生懸命勉強しよう」)があり、文章の最後には、全体のしめくり文(「毎日元気で頑張っています」)も存在して、まとまりを見せている。

#### 5-5. 4-5. の分析結果と考察

##### A -中国の春節-

全11文

文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	主題の設定	1
承前型	8	前文の言い換え	1
		指示語「それは」	1
		前文語反復	5
		接続詞「でも」	1
転換型	2	接続詞「ところで」	1
		新時間場面設定	1

しめくり文 無し

始発文型は、Aが始めに主題の設定、Bは時間・空間場面の設定。

Aの承前型の決定因子には、前文の言い換えや前文語反復、指示語、接続詞などが見られる。Bでは、前文を言い直して説明したり内容を具体化したり、また前文と対照になる文の作成なども見られる。Aの前文語反復が5と多いのは、「ところで」以下で内容が「中国の春節」になってからの展開が早く、単文で畳みかけるように書き進んだためである。前半部で主題に関連して展開した部分は後半部と関連が無く、首尾の一貫しない文章となってしまった。

Bは、説明的叙述と具体的な叙述の配合が良く、承前因子も豊富で文どうしの結束性が強い。最後はしめくり文で総括し、首尾一貫した文章になっている。

#### 5-6. 4-6. の分析結果と考察

##### A -松本での6ヶ月を振り返って-

全19文

文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	時間場面の設定	1
承前型	14	指示語「この間」	2
		「この半年」	
		前文語反復	2

##### B -私の生活-

全7文

文の型	数	型を決定する要素	数
始発型	1	時間・空間場面の設定	1
承前型	5	関連語句	1
		前文を言い直して説明	1
		具体化	1
		接続詞「また」	1
		前文との対照文	1
		接続詞「それに」	1

転換型 無し

しめくり文 有り

前文語言い換え	2	後接による意味関連	2
指示語「それなら」	1		
「例えば」で具体例	1		
後接による意味関連	5		
副助詞「も」	1		
転換型 4 新話題の提示	2	転換型 3 新時間・空間場面の設定	2
「次に」	1	お礼の言葉	1
新時間・空間場面の設定 1			

しめくり文 有り

しめくり文 有り

始発型は、Aが時間場面の設定、Bは時間・空間場面と主題の一部設定。

承前型は、Aが、指示語、前文語反復、前文語言い換え、「例えば」での具体例の提示、後接による意味関連、副助詞「も」と、文章が長くなった分、多彩になった。中でも、後接による意味関連が5と目を引くが、残念ながら、文意が不明瞭なものが多く、本来ならば接続詞や前文語反復などで正確に承前させるべきところが多くあった。しかし、記述量の面では目を見張る進歩を見せている。

Bについては、③⑧の具体例を挙げての詳しい説明や、④に見られるまとめ方などでも分かるように、描写（具象）と説明（抽象）のバランスの良さが分かりやすい文章につながっている。段落毎に意味のまとまりがあることも一貫性につながる要因であろう。

転換型については、承前型の中の始発型であるという性格を考えれば、それが新しい段落を起こすために最初に位置することは当然とも言える。Aの4つの転換型の中で段落のはじめに位置するのは⑩⑪⑬の3つで、これらについては問題ないが、⑥は段落途中で位置し、改行もされていない。また⑫は段落の最後の文で新たな話題が提示されたまま、その後に展開されることなく終わっている。Bは、⑤が二段落目のはじめに位置し、⑩⑪は二文セットで最後のまとめの段落を構成している転換型本来の働きである。

## 6. まとめの考察

今回の分析を通して分かってきたことは次のようなものである。なお、「はじめに」でも述べたとおり、今回は一文ごとのつながり方に焦点を当てた分かりやすさの観点からの考察であることを再確認しておきたい。

始発文型では、時間や空間場面を設定したものが多く、主題が始発文型において設定された文章は結束性、一貫性ともに良好で、読みやすい文章になっていた。始発型6文中、主題の設定は、Aが1、Bは4で、相対的にBの読みやすさが目立った。

承前文型では、前文語の反復使用が最も多くかつ有効でもあった。前文語の中の名詞を題目として取り出し、「は」の添う形で反復使用するものも多かったが、それらはほとんど省略されていた。承前因子中の前文語反復（省略使用も含む）数はAが $\frac{15}{40}$ 、Bは $\frac{7}{37}$ で、運用経験の少ないAにも使いやすい承前因子であったと言えよう。

接続詞、指示語を承前因子として使用したものは予想外に少なく、不正確でもあった。Aはそれぞれ2と7、Bは6と1の使用数であった。Aは不正確ながらも指示語を多用し、Bは接続詞を正しく多く使っていた。指示語の中では「そ」、「こ」の付くもの、とりわけ連体詞としての「その」「この」が承前因子として使いやすいが、今回の作文では両名とも十分に使いこなせているとは言えない。

少ない語彙の中から関連語を工夫して後続文で関連性を付けている文が多かった。Aは $\frac{10}{40}$ 、Bは $\frac{7}{37}$ である。類義語や反対語と同様、文章作成で使用する関連語を、多数の資料から抽出して組織化すれば、表現語彙として有益なデータになるだろう。

前文の言い換えや具体化、要約、集合把握と個別把握、対照文などの省前文型もあり、興味を引かれた。とりわけBが $\frac{12}{37}$ と多数を占めた。Aは $\frac{4}{40}$ 。今後、詳しく考察してみたい承前因子である。

転換型は、あくまでも同じ一つの談話中の文型であるので、承前型の中の始発型とも言える基本的な性格を抜きに考えることはできない。そういう意味では、今回の作文の中でも省前因子を併せ持つものが文章の中で比較的座りがよいことも理解できる。しかし、転換型の特徴である新しい話題（時間・空間・人物など）の提示は、やはり段落のはじめに位置することが無難で、その段落内で十分に内容が展開されることが分かりやすい文章になるための秘訣である。Aは転換文型の位置が固定せず、結束性と一貫性の無さにつながったが、Bは段落はじめに位置するものが多く、分かりやすさにつながった。

## 7. おわりに

学習者の「文型を現実のコミュニケーションの中でどう使えばよいか分からない」という悩みに端を発して今回の分析に取りかかった。その結果、日常言語の最小単位は談話であって文型ではないという事実に立ち返ることができた。文型はあくまで談話の素材であって、一文レベルの文型練習だけでは、実際のコミュニケーションで役立たない。

今回分析対象とした作文の書き手、A、Bの両名は、ともに教員研修生であった。教員研修生の場合、半年間の日本語研修コース終了後、専門に移籍すると同時に指導教官の授業を受け、論文を読み進めなければならない。また、日本人学生と同様に日本語でレポートや論文を書くことも要求されている。（注4）このような学習者のニーズに応じるためにも、初級レベルから運用につながる談話レベルの指導が求められるだろう。

今回の分析を通して見えてきたことは、逆説の接続助詞「が」のように（1）テキストの文型学習で容易に運用につながるものと、接続詞や指示語、助詞の「は」や「が」のように（2）文型単位の練習だけでは使いこなせないもの、さらに（3）未習であっても自然習得できるものの三つの類型があるという事実であった。今後も分析作業を継続し、この辺りの見極めを付けていきたい。

なお、今回はあくまで文のつながりに焦点を当て、分かりやすさを考察の目安としたが、作文の評価の観点はこのみでないことはもちろんである。今回は結果的にAよりもBの方が分かりやすいというプラスの評価が出たが、記述量の増加の側面からはAの変容が非常に大きかった。BがAに比べて日本での滞在期間が長く、運用経験も豊富であることを考慮するならば、Bの伸びが少なく、Aの方に将来的な伸びが期待できるとも言えよう。また、漢字の使用については、当然ながら漢字圏の学習者であるAがBよりも優れ、読みやすいということは言うまでもない。

今回は、分析方法を決定するまでにかなりの時間を要し、大まかな方向付けをしたのみで分析に入った関係で、考察もまとめも不十分なままである。今後は、より精緻な分析基準を設けてデータの累積に努め、文レベルでの文型の意味と談話レベルでの文型の機能の食い違いを明確にしていきたい。

## 注

- 1) 木下 (1998) p. 5
- 2) 林四郎 (1973) p.393-394
- 3) 林四郎 (1973) p.19
- 4) 下平菜穂ほか (2001) 「日本語研修コース修了生の追跡調査－非漢字圏学習者のケーススタディー」『信州大学留学生センター紀要』第2号で、学生Bの追跡調査の結果を報告している。

## 参考文献

- 林 四郎 1973 『言語教育の基礎論 1 文の姿勢の研究』 明治図書出版
- 木下 是雄 1998 「論理的な文章とは」『日本語学』 2. 1998 明治書院
- 国立国語研究所 1983 『日本語教育指導参考書11 談話の研究と教育 1』
- 入部 明子 1998 「国際化時代に通用する論理的な文章の書き方」『日本語学』  
2. 1998 明治書院
- 筒井 小夜 1996 「初級における談話レベルの作文教育」『言語探求の領域』 大学書林
- Alice Oshima , Ann Hogue 1991 Writing Academic English , Longman
- Joseph D. Gallo , Henry W. Rink 1979 Shaping College Writing : Paragraph and Essay ,  
Harcourt Brace Jovanovich
- 牧野高吉訳・監修／菅原永一ほか訳 1997 『第2言語習得の理論と実践 タペストリーアプローチ』  
松柏社
- カイザー・シュテファン 2000 「非漢字圏日本語学習者のための漢字・語彙教育のシラバスに関する考察－  
認知心理学実験の知見を踏まえて－」  
『筑波大学留学生センター日本語教育論集』 第15号
- 井上 敬夫 1998 「中学校段階の『論理的作文』とは何か」『日本語学』 2. 1998 明治書院
- 細川 英雄 1999 「日本語教育と国語教育－母語・第2言語の連携と課題－」  
『日本語教育』 100号 日本語教育学会
- 奥山 和子 2001 「留学生の日本語習得過程における接続表現の分析－作文・文章表現の観察・比較か  
ら－」 神戸大学留学生センター紀要 7
- 中川 正弘 2001 「日本語作文のフィードバック－添削と文法を越えて－」『広島大学留学生センター  
紀要』 第11号
- 河野 理恵 2000 「作文教育としての『ジャーナル・アプローチ』の意義」『一橋大学留学生センター紀  
要』 第3号2000
- 田頭 直美 2001 「中級入門段階における『ディスコース組み立て練習』の実践」『岡山大学留学生セン  
ター紀要』 第8号2001
- 山本 一男 1999 「総合学習としての日本事情教育とジャーナル・アプローチ」『留学生教育』 第2号  
1999 埼玉大学留学生センター

